

石川啄木直筆資料展

「明治43年10月・11月の書簡より」

函館市文学館では、「函館啄木会」のご協力をいただき、毎年4月と10月に「石川啄木直筆資料」の展示替えを行っています。

今年度下期は、啄木が明治43年の10月と11月に東京の本郷から、函館の宮崎大四郎宛てに出した手紙4通とはがき1通を展示します。

10月4日付けの手紙では、待望の男の子が誕生し、啄木はその喜びを三首の短歌で歌いあげています。

10月10日付けの手紙では、新聞社の編集長にあやかって、生まれた子に真一と名付けたことや、処女歌集『一握の砂』が東雲堂から出版されること、今までに無い形式の一首三行で書きあげたことが報告されています。

10月20日付けの手紙では、大四郎の娘の誕生に祝辞を述べる一方、一日をゆっくり寝て過ごしたいと思う程、多忙な日々を送る様子を綴っています。

しかし10月28日付けのはがきでは、啄木が夜勤から帰ると、数分前に加養中の長男真一が息を引き取ったことを、取り急ぎ大四郎へ伝えています。

11月1日付けの手紙では『一握の砂』の見本組が出来てきた日が、この世に僅か二十四日間、生を享けた真一の葬儀の夜だったことに触れられています。

真一誕生の喜びや、仕事の充実感に溢れた日々が一転し、突然訪れたわが子の死を受け入れられない、啄木の複雑な心境を読み取ることができます。

展示資料

1. 明治43年 10月 4日 宮崎 大四郎 宛書簡
2. 明治43年 10月10日 宮崎 大四郎 宛書簡
3. 明治43年 10月20日 宮崎 大四郎 宛書簡
4. 明治43年 10月28日 宮崎 大四郎 宛はがき
5. 明治43年 11月 1日 宮崎 大四郎 宛書簡



会 期 令和5年10月14日(土)～令和6年4月7日(日)

(休館日：11/6～10, 12/7, 12/31～1/3,  
1/17, 2/15, 3/14)

会 場 函館市文学館2階 石川啄木直筆資料展示室